

平成 2 3 年 1 1 月 2 2 日

－ 研究科紹介 －

21 世紀の生命・食・環境のサイエンスを牽引する
生物圏科学研究科

今回から、各研究科の現在・今後予定している「取り組み」などを紹介する「研究科紹介」を発表していきます。

1. 平成 23 年度文部科学省採択事業および新規プロジェクト

○理数学生育成支援事業

文部科学省の平成 23 年度「理数学生育成支援事業」に、「広島大学型アクティブラーニングによる研究者養成特別コースプログラム」が採択（32 件の申請のうち、本学部を含む 6 件の取り組みが採択）

生命・食と環境分野の学問意欲と情熱、大学院進学・研究者になる強い意思をもち、より強い学習意欲と能力を研き伸ばすため、教育プログラムの枠を超えた「研究者養成特別コース」を創設。

大学入学時から大学院進学・研究者養成に根ざしたグローバル教育を展開。大学院進学につなげるため、一部大学院の授業を受講するなど、将来有為な科学技術人材の育成を行う。

平成 2 3 年度入学生から 8 名をこの特別コースに選抜する。

○大学の世界展開力強化事業（タイプ B-II：米国以外の欧州、豪州等における大学等との協同教育を行う交流事業）

国際的な大学間コンソーシアムである INU（International Network of Universities）の枠組みを利用し、双方向の協働教育の枠組み（ダブルディグリー・プログラム、修士サマースクール）を、環境分野で実施し、地球社会の一員として国や地域の持続的発展に資する人材を育成。

（1 8 3 件の申請のうち、2 5 件が採択された。）

2. 「生命・食・環境のサイエンス」の出版（共立出版、11/25 発売）

生物圏科学研究科（生物生産学部）の教員 57 名が執筆に参加して、21 世紀の生命・食・環境のサイエンスをわかりやすく紐解いた概説書を出版。

3. フィールド教育研究の推進、充実

○食品製造実験実習棟の新設備導入披露会（1 月予定）

補正予算「食資源機能開発教育システム」、概算要求「循環型酪農教育システム」などで、食品製造実験実習棟の設備の更新・新設備の設置を行う。

各種食品分析装置を新設し、レトルト製造機、アイスクリーマーは更新する。中国四国地方の大学にはない（全国でも希有）食品実習工場を充実させる予定。

○農場の拠点化認定と共同利用

平成 21 年度に、全国で初めて農場が、文部科学省「教育関係共同利用拠点」に認定された。非農学系学部生のための演習「命の尊厳を涵養する食農フィールド科学演習」と、農学系学部学生を対象に「酪農フィールド科学演習－乳牛を中心とした食農フィールド演習－」を開講している。

○練習船豊潮丸、水産実験所も教育関係共同利用拠点認定に向けて準備

生物生産学部附属練習船「豊潮丸」で、教育ネットワーク中国による単位互換科目「瀬戸内海の恵みと現状を学ぶ洋上里海総合演習」（他大学学生向け授業）を実施、拠点化認定に向けて準備。

（教育ネットワーク中国では、23の大学短大が参加し、高大連携、教職員研修などに取り組んでいる。）

○日本鶏保護増殖舎

5月25日（水）に、研究科精密実験圃場内に「日本鶏保護増殖舎」を竣工。国の特別天然記念物「土佐のオナガドリ」等を筆頭に、シャモやチャボなど総計50品種保有し、また4種のウズラ28系統を保有するなど、家禽資源の種類豊富さは他に類例を見ない。

4. 他大学等との協定締結、連携

○山口大学農学部との間に部局間協定（1月予定）

来年度から、遠隔講義システムを用いた双方向授業

○フィリピン・ビサヤ州立大学との部局間交流協定締結（12月9日予定）

○中国・四国地区大学間連携フィールド演習（9国公立大学が参画）

広島大学が拠点になって推進。来年度は10プログラム開講。

広島大学の実施プログラム

- ・里海フィールド演習（練習船、水産実験所）
- ・酪農フィールド科学演習（農場）
- ・臨海資源科学演習（水産実験所）

【お問い合わせ先】

広島大学大学院生物圏科学研究科 運営支援グループ 村上 TEL:082-424-4376 FAX:082-424-2549
